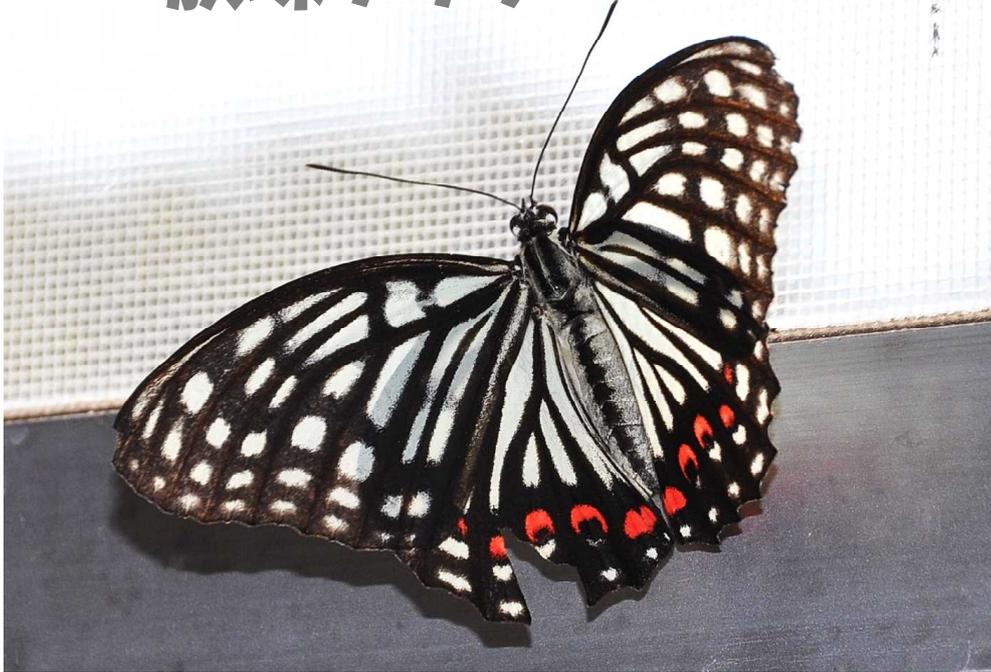


アカボシゴマダラ発見

“放蝶ゲリラ”の産物？



2013年9月10日、生物準備室に見慣れない蝶が入ってきた。小野寺先生が図書室で調べてみたところ、アカボシゴマダラであることがわかった。赤い斑紋が印象的である。そして、わずか2日後、**9月12日**にも、再び、生物準備室にやってきた。(同じ個体かどうかは不明)

アカボシゴマダラ 後翅の外縁に鮮やかな**赤い斑紋(アカボシ)**が目印で、他の蝶とはすぐに見分けることができる。この蝶は、もともと中国大陸などに生息し、十数年前までは、日本にはいなかった。**1995年に埼玉県**で初めて観察され、その後、1998年(神奈川県、繁殖・定着)、2006年(東京23区内)、2010年以降は関東全域に分布を広げている。栃木県では、『月刊むし』490号(2011年)に「**栃木県小山市でアカボシゴマダラを採集**」(青木好明)という報告がある。

アカボシゴマダラが、近年、関東地方に分布を広げている原因は、**意図的な放蝶**によるものである(国立環境研究所「侵入生物データベース」より)。この蝶を愛好する一部のマニアが中国から持ち込んで、増殖させた上で野外に放しているらしいことが、現在では確定的になっている(World Joint club「日本の外来生物」より)。この行為は“**放蝶ゲリラ**”と呼ばれている。(同「侵入生物データベース」より)

人為的に放たれたアカボシゴマダラは、瞬く間に繁殖・定着し、急速に分布域を広げている。佐高で発見されたということは、**佐野市内でもすでに繁殖**をしている、ということだろう。本種の侵入により、在来種と食草を巡って競争が起こる可能性があるなど、生態系への影響は計り知れない。本種は、現在、環境省により「**要注意外来生物**」に指定されている。

(→この蝶をどこかで見かけたら、生物準備室まで、お知らせください。)

